

# ぱれっと

2011  
6月  
No.142

まだ\*これ 合併号

## ●目次

- P 2 ~ 3 震災を記録する市民活動
- P 4 ~ 5 災害時だからこそ“協働のチカラ”
- P 6 市民活動サポートセンターからのお知らせ

## ともに、前へ！仙台

### 東日本大震災 特別号③

仙台では、応急仮設住宅への入居が始まっています。また5月には、奥山市長が被災地域の皆さんと復興に向けて意見交換を行う「復興座談会」が各区で行われました。

復興へ向けて目まぐるしく変化する状況に合わせて、市民活動団体・NPOの活動も多種多様になってきています。こうした復興への様子を記録し、伝えていこうという動きも生まれ始めています。



▲市民の皆さんからの問い合わせも多種多様になってきました。サポセンでは、市民の皆さんと復興支援活動に取り組んでいる市民活動団体・NPOをつないでいます。

## ■ご利用案内■

### <開館時間>

平日 午前9時～午後10時  
日曜・祝日 午前9時～午後6時  
休館日 5月～8月 毎月最終水曜日  
9月～ 第2・第4水曜日

●仙台市市民活動サポートセンターは、市民活動団体・NPO等の復興支援・まちづくり支援の一環として、9月30日(金)まで無料で貸室をご利用いただけます。

# 東日本大震災 ～その時～

## 震災を記録する市民活動

東日本大震災から3ヶ月が過ぎ、市内中心部はだいぶ落ち着きを取り戻しつつある一方で、被害の大きかった沿岸部への復旧・復興には、よりいっそう支援の力が注がれています。被災地でも少しずつ復興へ歩み始めているなか、「この震災の記憶を風化させてはいけない!」と、市民自らが震災を記録しようという活動が起こっています。今回は、新聞やテレビ・ラジオなどのメディアとは違った視点から震災を捉え活動をしている3つの団体をご紹介します。

### ■市民の眼が写した大震災

#### NPO法人20世紀アーカイブ仙台

20世紀アーカイブ仙台（以下、アーカイブ仙台）は、昔の仙台はどんな姿だったのかを多くの市民に伝え、過去とのつながりを実感できるよう映像・写真・音楽などをアーカイブ化し、後世に残すことを目的として設立された団体です。実際に8mmフィルムやスチール写真などの資料を使って、イベント等での展示や高齢者向けの回想法レクリエーションを行っています。

アーカイブ仙台は、東日本大震災後、アーカイブウェブサイト『「3.11」市民が撮った震災記録Web』を立ち上げました。今回は、サイト担当の佐藤正実さんにお話を伺いました。

「この震災を風化させないために、市民が記録した写真を後世に残そうと、3月22日からインターネット上で画像提供の呼びかけを始め、4月1日からホームページ上に寄せられた写真を公開しています。プロとは異なる目線で、被災者自身が「残さなければ」との思いで撮った写真です。同じ日・同じ時間に、それぞれの場所でそれぞれの方が見たものを、複眼的に捉えた貴重な記録です」と佐藤さん。サイトを見た方が「自分も撮った写真がある」と投稿してくれたり、口コミで広げてくれたりして多くの写真が集まってきているそうです。

「個人の記録ではなく、市民共同の財産となる記録に参加できるということが受け入れられているの



▲給油待ちの車の列と買出しに並ぶ人々(3月24日)  
「3.11」市民が撮った震災記録Webより



### 写す



▲壁が倒れ崩れたレストラン(3月11日)  
「3.11」市民が撮った震災記録Webより

ではないか」と、佐藤さんはおっしゃっていました。5月18日の時点で約70名から約7000枚の写真が提供されました。その中から画像の重複や市民感情を考慮してセレクト後、約650枚が公開されています。

それでも「まだ公開するのは早いのでは」という声もあったそうですが、阪神淡路大震災など過去の被災例から、収集開始が遅れると資料が散在しまうおそれを防ぐため「早くから記録の収集と公開をしないといけない」と思っていました」と、アーカイブ仙台ではサイトを開設したそうです。

今後はウェブだけでなく、書籍化してウェブを見ることができない方にも見ていただき、震災の風化防止や防災のための共通資料として役立てるようにしたいと考えているそうです。（菅野祥子）

#### NPO法人20世紀アーカイブ仙台

【代表者】 坂本英紀

【連絡先】 TEL 022(387)0656

FAX 022(387)0651

(連絡可能な時間帯 9:00~18:30)

【E-mail】 npo20thcas@yahoo.co.jp

【ウェブサイト】

<http://www.d2.dion.ne.jp/~clip/20thcas.html/>

※写真の投稿・閲覧は下記サイトをご覧ください。

「3.11」市民が撮った震災記録Web

<http://www.sendai-city.org/311.htm/>

録る

## 記録は未来の財産に

### 3がつ11にちをわすれないためにセンター



▲放送局を利用する様子

「わすれん！」をせんだいメディアテーク2階に開設しました。

「わすれん！」では、市民、市民メディア活動者、アーティストらによる震災復興に関わる取材活動、記事制作、配信の支援を行います。さまざまなメディアの活用を通じ、情報共有、復興推進に努めるとともに、収録された映像、写真、音声、テキストなどを「震災復興アーカイブ」として記録保存していきます。

また、「わすれん！」には、スタジオと放送局が設置されており、スタジオは情報収集やビデオカメラ等取材用機材の提供の他、テキスト執筆、映像や写真の編集、インターネットへの配信などに利用できます。放送局ではインターネットを介した番組の

せんだいメディアテークは、東日本大震災による甚大な影響に対し、ともに向き合い、考え、復興への長い道のりを歩き出すために「3がつ11にちをわすれないためにセンター（以下、わすれん！」

収録と配信をおこないます。一部の番組については、ケーブルテレビでの放映も予定されています。

他にも、中高生のための映像ワークショップを開催し、中高生たちが震災後の仙台の街・人・活動を記録していく支援を行います。

すでに被災地で記録をつづけている市民メディア活動者のもとには、被災された方からも、「記録し、残すこと」についての共感や支持も届いているようです。

震災の発生から復興へ向けて刻一刻変わっていく仙台の様子を、市民や専門家がそれぞれの視点で記録、それを集積していくことで、震災の被害と、それを乗り越える市民ひとりひとりの軌跡を残していくという取り組みが、今まさに始まっています。

(太田 貴)

#### 【問合せ先】

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1

TEL 022(713)4483 FAX 022(713)4482

【E-mail】 office@smt.city.sendai.jp

【ウェブサイト】 http://www.smt.jp/

## 復興支援活動取材し発信する

### 市民ライターグループ「おかきプラス」

市民活動サポートセンターの「震災復興支援活動情報 サポセンかわら版」をもうご覧いただきましたか？市民活動団体・NPO、企業等が行なう復興支援活動情報を、10日毎に市内公共施設、避難所などにお届けしています。今まで110団体を紹介してきました。取材と原稿の執筆をお願いしているのが、市民ライターグループ「おかきプラス」です。

「おかきプラス」は、それぞれに仕事を持つ3人の女性が中心となって活動をしています。初めての出会いは2002年、NPOが主催した「市民ライター養成講座」でした。その後、仙台市環境局廃棄物管理課が発行する「アレマ新聞」（2003年～2010年）の取材執筆を依頼され、養成講座で学んだことを活かす機会を得ました。2007年に正式に「おかきプラス」としてグループを結成してからは、「仙台市環境局クリーン仙台推進員事例集」（2009年）、そして「くりこま耕英震災復興の会 震災復興の記録誌」（2010年）など、さまざまな取材実績を重ねてきました。

「おかきプラス」の強みは、市民目線で取材相手の話を聞けることです。メンバーの高橋さんは、

「サポセンかわら版の取材を通して、それぞれのNPO等が支援にかける思いが伝わってくる。その思いを文章にしたい」といいます。そして、「被災者に役に立つ情報とともに、『忘れない、応援しているよ』というメッセージを届けたい」と話してくださいました。

マスコミが報道しない、地域の草の根の市民活動団体・NPOなどの復興支援活動情報を「おかきプラス」の市民目線を加えつつ、しっかりと発信・記録し、被災者支援につなげていきたいと思ひます。

(真壁さおり)



▲代表の葛西さん(右)、高橋さん(中)、秋野さん(左)

#### おかきプラス

【代表者】 葛西淳子

【連絡先】 FAX 022-268-4042(レターケースNO.100)

【E-mail】 okakip@yahoo.co.jp

【ブログ】 http://blog.canpan.info/okaki/

## ● 報告 ●

# 災害時だからこそ“協働のチカラ”

震災発生後、仙台市には、3月15日の宮城野区を皮切りに、5区に災害ボランティアセンター（以下 災害VC）が設置され、泥だし、家の片付け、避難所支援など、被災者支援のため、多くのボランティアの方々が活躍しました（運営主体：社会福祉法人仙台市社会福祉協議会）、サポートセンタースタッフも、ボランティアや市民活動支援を行ってきた経験から、災害VCで運営面のサポートなどを行いました。今回は、運営ボランティアとして関わったスタッフの報告と実際にボランティア活動を行なったスタッフの体験レポートをお届けします。

### 若林区 災害VC

### 被災者ニーズをつかみ 市民活動団体へつなぐ

今回の震災は、地震被害と津波被害という想定を大幅に超えた規模で発生し、特に沿岸部が区域内にある若林区と宮城野区は、津波の被害が甚大でした。他の区と比較すると、ボランティアの要請も希望者も多く、運営スタッフの業務量も多かったと感じます。運営スタッフは、ボランティアの要請を受け付け、派遣の調整を行います。社会福祉協議会の職員だけでは、到底処理できません。そのため、ボランティアセンターの運営は、神戸や大阪など他県の社会福祉協議会からの応援、春休み中だった地元大学生を中心としたボランティア、NGOのスタッフなど、様々な方々が協力しまさに協働型で行なわれました。

ボランティアの要請の中には、個人の登録ボランティアの方では担えないようなこともあります。例えば「避難所で、催し物をしてもらう団体を紹介して欲しい」といった団体への要請もありました。ま

た、要請内容を詳しく伺っていくと、実は障がいを持っている方が困っていたというような、隠れたニーズにつながることもありました。個人のボランティアで対応できないことでも、専門性を持って活動している市民活動団体なら対応できるケースがあります。これらのケースには、サポートセンターで収集した団体情報を元に、市民活動団体につなぐことで支援することが出来ました。

災害VCでの経験をもとに、これからも被災者のニーズと市民活動団体の支援活動をつなぎながら、復興支援をしていきたいと思っています。



▲避難所へ渡す千羽鶴を手にするボランティアの皆さん  
(若林区災害VC)

### 宮城野区 災害VC

### みんなで考え 課題を解決する

宮城野区災害VCで、私は総務班として内外との調整業務を担当し、ボランティアと運営ボランティアが円滑に業務を行えるようにサポートさせていただきました。

災害VCでは、社会福祉協議会を中心として、市民ボランティア、企業、NPO・NGO、学生など様々な立場の人々がセンター運営に関わり、協力合うことで、いろいろな課題を解決しながら、「協働の力」で、被災地への支援を行ってきました。

今回の報告では、2つの課題解決のケースをご紹介します。

まず、大きな課題だったのは、災害VCから津波被害が大きかった地区への距離の問題です。災害VCから現場への移動には車でも20分はかかります。そのため、日々変化していく地域の細かいニーズに応えることは難しくなります。また、地域で避難している方たちに、災害VCがどのような支援を

行なっているのか届きにくい状態でした。

こうした課題を解決するために、立ち上がったのが民間のボランティアグループです。このグループが中心となり、社会福祉協議会や地域住民の協力を得て、より地域に密着した場所にボランティアセンターの支所を設置することができました。現在も、このボランティアセンターを拠点に、地域に寄り添った支援活動が続けられています。

もう一つの課題は、人手不足や発信ツール不足により災害VCの情報発信力が弱かったということです。この課題は、地元新聞社や企業、学生ボランティアが連携した「情報発信チーム」の結成により解決しました。「情報ボランティア@宮城野区・若林区」というブログにて、日々のボランティアの様子や思いが分かるように発信されていますので、ぜひご覧ください。

○「情報ボランティア@宮城野区・若林区」ブログ  
<http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer16/>

宮城野区災害VC  
協力スタッフ 吉田祐也（協力期間：3月31日～5月15日）

## ●スタッフ体験レポート●

### 太白区 災害VC

遠慮は無用、  
おたがいさまのボランティア

3・11東日本大震災が仙台を襲い日常を奪っていった。この状況で、サポートセンターでは、スタッフが災害VCへボランティア参加し、復興支援活動の一助となるために行動を開始しました。そこで、わたしは、4月2日・3日・16日と太白区災害VCへ赴き「高齢者宅の被災部屋屋内の整理、清掃」「避難所移転に伴う撤去整理、清掃」「棟屋破損に伴う撤去整理、清掃」を行いました。内陸部に位置する太白区は、沿岸部とは違い震災による建屋の内外的損壊による復旧支援といった活動でしたが、余震が頻繁に続く中、安全を確保しつつの作業でした。

高齢者宅でのボランティアでは、高齢者が被災により部屋の片付けや清掃、整理ができず困っている状況がありながら、要請を本人自らが行うのは「申し訳ない」とか「もっと被害が酷い方がいるのに」といった遠慮があることを感じ、本当は困っている方々が想像以上に多いのではないかと思いました。もう少し気軽に依頼されてもいいのかもしれない。

今後も避難所、仮設住宅以外でも潜在的に支援を求める方々を顕在化して、支援団体や行政、各区の災害VCへつないでいくことが私たちのできることではないかと思った体験となりました。

(堀隆一)

### 宮城野区 災害VC

各地からの支援を  
いま、ここでつなげる

私は、4月2日と22日の2日間、宮城野区災害VCでボランティアに参加しました。初日は、岡田地区の一軒家に男女15人で行き、男性陣が玄関前のがれき撤去、女性陣で家の中の泥かきを行いました。泥は、ガラスやがれき、もともと家にある小物など全てが一緒になりとても重く、大変な作業でしたが、終わった後同じ作業をしている人の間には達成感とともに、一つのチームのような一体感がありました。

4月22日は、ボランティアに貸し出す道具を管理する「支援班」の作業で、前日使われたゴム手袋の洗濯をしました。宮城野区は、津波の被害を受けた地域からのがれき撤去・泥かき要請が多く、雨天時は安全を考慮しボランティアを派遣できないこともあるようです。作業中に、京都から来ている運営スタッフの方とお話する機会がありました。「阪神・淡路大震災の時、全国の人から助けてもらったので、何か恩返ししたいと思った。特に神戸の人たちはその想いが強く、大阪や京都はそれに刺激を受けた」という言葉が印象的でした。

私も今回の震災を受けて、全国からの支援の大きさを実感しています。今後、地元のボランティアの方が力を発揮できるよう、情報収集に努めていきたいと思っています。

(難波未由希)

## ●市民活動団体をつないで復興支援

震災直後、区災害VCは、仙台市内の青葉区、宮城野区、若林区、太白区、泉区に設置され運営を行っていましたが、4月24日からは通常の各区のボランティアセンターへと切り替わっています。また、4月27日に、津波被害が甚大だった宮城野区、若林区に設置された、仙台市北部／南部津波災害ボランティアセンターも、5月末には「仙台市津波災害ボランティアセンター」に統合されました。

被災地の状況は日々変化しています。この度の震災においてボランティアの活躍は被災地の復旧の力となり、果たした役割も大きいものです。今後一日も早い復興のためには、被災者のニーズを的確につかみ、ボランティア活動へつなぎ、さらに次なる支援として市民活動団体・NPOへつなぐことがよりいっそう必要になってきます。サポートセンターでは、これまで蓄積してきた情報をもとに、各区のボランティアセンターや地域拠点と連携しながら、被災者や被災地の復興に向けての支援活動を行っていきます。



▲災害VCに集まった  
たくさんのボランティア

### ■仙台市津波災害ボランティアセンター

設置場所：元気フィールド仙台・宮城野体育館  
仙台市宮城野区新田東4-1-1

電話番号：要請用 022(231)1320  
希望者用 022(231)1326

開設期間：6月1日(水)より当分の間

### ■仙台市災害ボランティアセンターは、 従前のおり情報センターとして運営します。

開設場所：仙台市福祉プラザ4階  
仙台市青葉区五橋2-12-2

電話番号：022(262)7294

ウェブサイト：<http://www.ssvc.ne.jp/>

## 市民活動サポートセンターからのお知らせ

### ■市民活動シアターもご利用いただけます。

7月1日から、復興支援活動のためのイベント等で市民活動シアターも無料でご利用いただけます。

受付期間：6月15日(水)～6月25日(土)

対象期間：7月1日(金)～9月30日(金)

抽選日：6月28日(火)

※詳細についてはお問い合わせください。

### ■10月1日(土)からの通常開館にともない、貸室申込受付を再開します。

○受付開始 窓口での申込 7月1日(金)9:00～

電話での予約 7月1日(金)14:00～

○7月1日に申込可能な日

研修室：10月1日(土)

セミナーホール：10月1日(土)～12月27日(火)

市民活動シアター(全日)

10月1日(土)～12月27日(火)

市民活動シアター(区分)

10月1日(土)

※9月～第2、第4水曜日が休館日となります。

○研修室、セミナーホール(無料)

対象期間：9月30日(金)まで

用途：打ち合わせ、会議、イベント、研修等

○シニア活動に関するご相談も受け付けます。

相談時間：10:00～17:00

**なお現在は、震災後の復興支援のため、市民活動団体・NPOの活動拠点として貸室を無料でご利用いただいております。(9月30日(金)まで)**

### ■ロッカー・レターケース使用団体を募集します。

ボランティアや市民活動団体など、自発的で公益的な活動を行う団体が利用できます。ロッカーは活動に必要な荷物の収納場所として、レターケースは団体宛の郵便物・FAXの受け取り先としてお使いいただけます。

○使用期間

ロッカー：2011年9月1日～2012年8月30日

(31日は入れ替え日の予定)

レターケース：2011年9月1日～2012年8月31日

○募集数・使用料

ロッカー(大) 10個・1,200円/月

ロッカー(中) 28個・800円/月

ロッカー(小) 80個・400円/月

レターケース 168個・無料

○申込受付期間：7月6日(水)～7月25日(月)

9:00～21:00(日曜・祝日は17:00まで)

○申込方法：

サポートセンターで配布する申込用紙で申し込み

※ホームページから申込書をダウンロードできます。

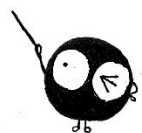
■東日本大震災を受け、復興支援活動に取り組む市民活動団体・NPOがサポセンをご利用いただく際は、事前に「復興支援活動団体利用受付シート」の提出をお願いしています。3月28日から6月2日には、133団体からの利用受付シートのご提出がありました。

このシートは、サポセン1階に掲示し、ブログ等にも掲載します。

また、団体からのご要望に応じて、10日毎に発行している「サポセンかわら版」にも掲載いたします。団体活動の詳細はこちらをご覧ください。

### ●復興支援活動情報ブログ

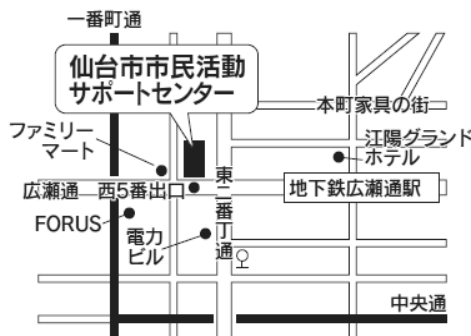
<http://blog.canpan.info/fukkou/>



### ■案内図

[最寄りのバス停]  
電力ビル前  
商工会議所前

[地下鉄]  
広瀬通駅下車、  
西5番出口すぐ



### ■編集後記

6/3現在、仙台市内では17カ所の避難所に約1,500名の方が生活しています。その方たちの応急仮設住宅への入居が進む一方で、在宅で支援を必要としている方も大勢いらっしゃるはず。サポセンでは、多様な復興支援活動を行う市民活動団体・NPOが長期に渡り力を発揮できるようサポートしています。(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2011年6月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 真壁さおり

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]